

# 平成二四年度地域国際化協会職員海外研修報告

地域国際化協会連絡協議会事務局

(財自治体国際化協会調査部連絡調整課)

## はじめに

近年、グローバル化の進展に伴い、地域の国際化への取組みがますます必要となつていく。

地域国際化協会としても、地域における国際交流・協力活動の裾野をより一層広げ、質の高い事業を展開することが必要である。

こうした背景を踏まえながら、平成一四年度地域国際化協会職員海外研修は、平成一五年一月一六日から一月二二日までの七日間の日程で、八名の地域国際化協会職員の参加を得て、ベトナムにて実施した。今回一〇回目を数える本研修では、国際協力のあり方とNGO等との連携を中心テーマとして、農業(畜産)や教育等の分野で活躍している日本のNGOや国際協力事業団(JICA)等の活動現場における、現状の視察及び関係者との意見交換等を通して、地域国際化協会職員の一層の国際理解・協力の推進に資することを目的とした。

以下、各訪問先での研修の概要を報告する。

## 各訪問先での研修概要

### 一 JICAベトナム事務所(ハノイ市)

同事務所は、一九九五年に開設され、青年海外協力隊員の派遣、専門家派遣、研修員の受入れ、プロジェクト方式による技術協力などを行っている。そのうちプロジェクト方式による技術協力は、国立獣医学研究所強化計画プロジェクトなど二五件を実施している。

また、ベトナムに対する援助計画の重点五分野として、

- ①市場経済化を支援するための人づくり・制度づくり
- ②電力・運輸等の経済インフラの整備
- ③農業・農村開発
- ④教育及び保健医療
- ⑤環境開発

を挙げている、との説明を受けた。

二ベトナム国立獣医学研究所(ハノイ市) 同研究所において、JICAにより二〇

〇〇年三月から「ベトナム国立獣医学研究所強化計画プロジェクト」が行われている。このプロジェクトの目標は、家畜感染症診断技術の向上による、ベトナムにおける畜産振興であるが、視察によって、本研究所の研究員に対する技術移転のみならず、ベトナム全土の地域獣医師に対しても感染症診断技術の普及・研修を実施し、ベトナム全土の技術レベルの向上を図ることに重点を置いていることがわかった。

三ベトナム「子どもの家」を支える会(フエ市)

同会は、ベトナム中部の古都・フエ市(本誌二七頁「グラビア」参照)において、ストリートチルドレンの自立支援活動に当たっているボランティア団体で、元小学校教諭の小山道夫氏により一九九四年に発足した。

現在、ベトナム事務所には、日本人三名とベトナム人三名の計六名のスタッフが常駐し、事務所近くに建設した「子どもの家」で六〇名の子どもの面倒を見ている。

(1)ベトナム「子どもの家」

事務所から車で約一五分ほど離れたところに、「子どもの家」はあった。

ここで生活する子どもたちは、親がいなかったり、家がなかったり、家庭の事情で家族と住むことができない、いわば行き場のない子どもたちである。また、親がいて家があつても、貧困のため就学困難な子どもに対して、就学保障を前提に「在宅支援」をしている子どもが三〇名いるとのこと。そして、これらの子どもたち一人ひとりには、日本人の里親がおり、年間三万円の生活費を支援している。これで、最低限の衣食住と学費が賄われている。

そのほか、この「子どもの家」に対しては、草の根無償資金協力やJICA開発福祉支援事業による支援が行われ、「顔の見える援助」として成果を上げているものであり、二〇〇二年には、ベトナム政府機関(PACCOM)から、現地でボランティア活動をする上での最高ランクのライセンスが授与され、より活動の幅が広がった、との説明があつた。

これまでの日本人スタッフ等による地道な活動から市民の信頼も厚く、市民や日系企業からもその活動に協力の申し出があるなど、この地域には、もはやなくてはならない存在になっていると感じた。

(2)「子どもの家」附属上級職業訓練センター  
「子どもの家」から少し離れたところに、この家の将来の財政的な自立のため、フエ市人民委員会(政府)からの土地提供(一〇〇㎡)を受け、新たに職業訓練センター(上級)を建設したとのこと。将来は、ここに附属工場をつくり、利益を上げる計画であるという。

現在は、日系企業の「ホンダベトナム」からの寄贈により、オートバイの修理研修施設となつていた。

これまでも、「子どもの家」の中にミシンやコンピュータの教室を備え、ベトナム人指導員により子どもたちの自立支援を行つてきた。しかし、将来子どもたちが生活の自立をしやすくするためには、より高度な技術を身につける必要があるのだと話していた。

子どもたちはここで、約六カ月間にわたり、バイクの修理技術の習得に必要な理論と実技を一日四時間学んでいる。

#### 四新瀾国際ボランティアセンター

#### (NVC) 支援活動現場(ホーチミン市)

#### (1) NVCとは

一九八九年、ラオス婦人同盟と日本国際ボランティアセンターが開始した農村生活改善プロジェクト(乳幼児死亡率低減)に資金協力するため、新瀾市内でバザーを開催したのをきっかけに、一九九〇年に発足している。(本誌四八頁「クローズアップN G O・N P O」参照)

活動に関しては、その規模や特性を活かし、JICA(国際協力事業団)やODA(政府開発援助)の手の行き届かないところを援助している。主な活動は、教育支援、孤児の成長支援であり、具体的には奨学金の賦与、小学校建設、生活支援等がある。こうした事業は全てNVCに対する寄附金で賄っている。

#### (2) 小学校建設プロジェクト現場(フックロック小学校)

同プロジェクトは、小学校が不足している地域に小学校を建設し、児童に教育の

機会を提供しているもの。今回は、そのうちのひとつ、ホーチミン市郊外のフックロック村のフックロック小学校(分校)を訪れた。

ここでは、「教室二名(一年生二名、二年生九名)の子どもたちが学んでいるが、同村内には二年前に世界銀行の支援によつて本校が建てられ、ここでも小学一年から五年生まで(ベトナムの小学校は五年制)の四五一人が学んでいるとのこと。同行していただいた、NVC代表の多賀

氏(早稲田大学教授)によると、訪問した分校に通う子どもたちは、本校に通うためには川を舟で渡らなければならず、小学一、二年生にはあまりにも危険であるとのこと、村からの要請もあつて分校が存続しているとの説明を受けた。

子どもたちは、研修参加者の前で歌をうたつて歓迎してくれた。

#### (3) 孤児院支援プロジェクト現場(マイアムバーチウ)

同プロジェクトは、孤児院の建設や孤児院の運営費の支援を通じて、教育機会を与えるだけではなく、子どもたちが健康で人間らしい生活を送るための環境を整備するためのプロジェクトである。

今回は、NVCが建設した孤児院「マイアムバーチウ」と、NVCが運営費を支援している障害孤児施設「キークワン盲学校」の二つを訪問した。

マイアムバーチウは、NVCがホーチミン市婦人慈善協会(WOCA)の要請を受けて開設したもので、ベトナムにおける孤児院建設の一つのモデルとされているようである。現在は、七歳から一六歳までの二名の女の子が、二名(寮母一名、調理担

当一名のスタッフとともに生活している。また、この院の運営費は、在ベトナムのニユージールランドコミュニティ(ボランティア組織)が支援している、との説明を受けた。

子どもたちは、人間として最低限度の生活ができることで人間らしさを取り戻し、毎日元気に通学しているが、原則として一六歳まで(二一年間の職業訓練を受ける子どもは一八歳まで)この施設で生活し、社会に出なければならぬ。この子どもたちの未来に心からエールを送りたいと感じた。

#### (4) キークワン盲学校

前述のとおり、NVCが一九九八年度から、キークワン寺内にある盲学校に住んでいる障害を持った子どもたちを支援している。支援内容は、ここで生活する一六〇人余の孤児や障害児のうち、三五人分の食費や教育設備費の支援を行っているとのこと。また、現在自立に向けて、農場の運営や雑貨品の製作のための職業訓練なども、目の見えない子どもたちのための点字や針、指圧と合わせて行っている。

同行したNVCの現地スタッフである福田運営委員によると、NVCは支援するに当たって、現地視察やヒアリングなど詳細な事前視察を十分行い、支援中は運営に口出しをせず、現地の人の手法を尊重している。また、支援事業が軌道にのるか、一定の方向性が見出せれば支援を撤退していく考えであることを明らかにした。このことは、今後の国際協力のあり方を考える際のヒントともなる。

#### 五ホーチミン市婦人慈善協会

(WOCAC) (WOCAC)

最後に、上記でふれたWOCACについて簡単に紹介しておきたいと思う。

#### (1) WOCACとは

ホーチミン市で活動しているNGO団体で、一九八九年に設立された。設立当時の目的は、ベトナム戦争直後のストリートチルドレンや戦傷者、寡婦の急増に対応した支援を行うことであった。

NVCとは一九九六年から協力体制を取り、これまでに小学校建設及び孤児院支援などを行ってきた。

#### (2) WOCACの事業について

WOCACが現在行っている主な活動は以下の四つである。

- ・ 身寄りのいない老人への支援
- ・ ストリートチルドレンへの支援(障害を持った子への支援、小学校建設事業)
- ・ マイクロクレジットプログラム(事業を始める人に対して資金を貸し付ける制度)

・ 奨学金・職業訓練プロジェクト  
以上のような活動を、ホーチミン市人民委員会の許可を得て、NVCなどの海外のNGOとともに展開している。

#### おわりに

実際に国際協力の対象となっている現場を訪問し、自分の目で確かめ、現地の人の話を聞き、また疑問に思った点を質問することで、何が問題となっており、どのような支援が必要かということが、初めて理解することができた。

今後、研修参加者が地域国際化協会の事業などを通じ、それぞれの地域において国際化を一層推進していただければ幸いです。

最後になつたが、本研修の実施に当たってご協力いただいた機関、団体の関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

平成14年度地域国際化協会職員海外研修日程表

行程	年月日	摘要
1	1月16日(木)	成田空港集合 空路ベトナムへ 入国・通関手続き終了後、ハノイ市内ホテルへホテル着(チェックイン) <ハノイ市内泊>
2	1月17日(金)	JICAベトナム事務所訪問 JICAによる国際協力の活動現場視察(国立獣医学研究所) ハノイ空港へ移動 空路フェエへ
3	1月18日(土)	フェエ市内ホテル着(チェックイン) <フェエ市内泊> 「子どもの家」支える会事務局訪問 NGO現場視察(ストリートチルドレン訓練センター) フェエ市内視察 ホテル着(チェックイン) <フェエ市内泊>
4	1月19日(日)	フェエ空港へ移動 ホーチミンシティー空港へ ホーチミン市内ホテルへホテル着(チェックイン) <ホーチミン市内泊>
5	1月20日(月)	NVC活動現場視察(小学校) WOCAC事務所訪問 WOCAC活動現場(孤児院)視察 NVC活動現場視察(プロジェクト相談)
6	1月21日(火)	<ホーチミン市内泊> NVC活動現場視察(キークワン寺) 自由行動 空路成田空港へ <機内泊>
7	1月22日(水)	入国通関手続き終了後、解散